

第五章 教化活動

聞法会	92
かはづの会	95
たんぽぽ子ども会	107
社会参加	
平和な世を願って	114
福島の人々と共に	116
炊き出しボランティア	120
「ミンダナオ子ども図書館」との交流	122
広報事業	
「響流」(寺報一号〜七八号)	124
「ひびき」(寺報七九号〜九四号)	135
「かぎはな通信」(No.1〜No.82)	141
出版物一覧	142



聞法会

住職を継承した昭和六十三(一九八八)年より、勝福寺が仏法を学ぶ僧伽となることを願って、寺報「響流」を発刊するとともに、法要以外に定例の聞法会を始めました。その一つは、仏法と一緒に語り合う座談を中心にしたものであり、もう一つは、法話を聞くことを中心にしたものでした。座談を中心にした「同朋会」では、はじめ本などの輪読をし、それから自由に座談をしました。結構、長く続きましたが、今は「はじめの一步」となっています。「座談会よりお話を聞く方がいい」という声に応じて始めたのが「定例法話」です。後に「日曜法座」と名を変え、現在では「御名を聞く会」となっています。こうした定例の聞法会のほかに、時に応じて「百日聴聞会」や「お持ち受け聞法会」を開催してきました。なお、両期間中は定例の聞法会は休止しています。そのほかにも、有志による「百日安居」や「汝自当知の会」も行ってきました。

同朋会

住職を継承した昭和六十三(一九八八)年の九月より「同朋会」を始めています。時間は毎月第二土曜日の午後七時半から十時頃まで。当時のことを振りかえって、坊守は次のように記しています。

昭和六十三年に住職・坊守を拝命した未熟な私達は、親鸞聖人の明らかにして下さった浄土真宗を聞法体得する歩みを、ご門徒の皆さんと共にしたいと願って、暗中模索の歩みが始まりました。「同朋会」もたった一人ということもあり、「定例法話」も十人位でした。それでもまず自身のためでもありましたからやめず今日に到りました。「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」との聖人の願いに導かれつつ。

内容は、『生命の大地に根を下ろし』『もしよき人に遇わざれば』『北の大地に念仏の花開く』、藤原正遠先生のご法話テープ、榎本栄一さんのテープ、「絶対他力の大道」『いのちの御物語』等の輪読と座談を中心に行っていました。

「同朋会」に参加されていた方の声が「響流」にのっていますので、ご紹介します。

同朋会に参加して

渡辺 和義 (常德)

私が初めて勝福寺同朋会に参加したのは、平成十(一九九八)年の六月頃だったと思います。最初は母の付き添いで参加させていただいていましたが、私にとって公私共に悩みの多い時期でもあったので、いつの間にか自分から進んで通うようになったようです。

丁度その頃、清沢満之先生の「絶対他力の大道」の勉強をやっていて、その格調高い文章に新鮮な感動とやすらぎを感じたことを昨日のことのように思い出します。

同朋会は、御院家さんと参加者の皆さんで話して、その時々テーマを決めて月一回のペースで開かれています。しかし「喉元すぎれば熱さを忘れる」の諺のように、悩みが薄れれば日常性に埋没し、同朋会とはつかず離れずの状態が今日まで続いています。

いっとういう形で参加しても暖かく迎えてくれる御院家さんと坊守さんには大変感謝しています。また参加する顔ぶれもその時々で違うことも多いのですが、職業や年齢に関係なくそれぞれの思いを口にし、耳を傾けることは、私にとって結構楽しいことです。

新しい年もマイペースで楽しく参加させて頂くつもりですのでよろしく願います。

(「響流」66号 二〇〇四年)

聞法の旅が始まる

中山 美津子 (山本)

仏教というとお葬式ぐらいの知識しかなく、無宗教で育った私にとって、仏教の言葉は難しく、親鸞さまの教えは、初めはとてもなじみないものでした。

自分のことを振り返ってみると、苦悩や不安いっぱいでした。苦悩というのは、腹が立ったり、ねたんだり、恨んだりして、悩み苦しむこと、不安というのは、何を頼りにして生きていけばよいのか、また、病気の不安、死んでしまうのではないかと不安です。そんな中、次々と思いがけないことが起こってきて、苦しみました。

最初は、悲しみ苦しみをどうにかしてなくそうと思って、教えを聞いていました。しかし、聞き続けていくうちに、苦悩の原因が外からやってくるように思い込んで、どうしたらよいのかと不安になっていった自分、あるいは、自分の思い通りしようと苦しんでいる自分というものが、問題になってきました。また、自分自身については、嫌な自分、ダメな自分、気に入らない自分を嫌っていくという自分のあり方が、問題になってきました。

与えられたいのちをそのまま生きることなく、いのちに反抗し続けるしかない私、こんな私にもあらゆる生命を生かしているいのちそのものから、呼びかけられ、その真実の声にした

がって生きていこうという、新たな生活が始まるうとしています。

そして、今、月一回開かれている同朋会に参加してもらっています。住職さん、坊守さんを中心にして、同朋の人達とともに、本の輪読をしたり、仏教に対する疑問や身近な問題など話しあっています。

私にとって聞法の旅はまだ始まったばかりです。
(「響流」68号 二〇〇六年)

母の念仏

中野 敏男 (高家)

私は、今年の夏に勝福寺のご住職より同朋会へのお誘いを受けて、現在参加させていただいております。今までお寺とは縁のない自分でしたので、輪読している信國先生の『いのち、みな生きらるべし』の本の言葉にもひっかかり、内容についても理解できない日が続いております。

参加して二回目の会で、ご住職より仏教で大切なことは「はじめに行ありき」―「行」とは念仏申す事と教えていただきました。しかし、私は「教え」を「教え」と聞いているだけで、念仏申すことが出来ません。

それから数日が経ったある日、亡き母の姿が浮かんできました。それはまだ私が小学校へ入学する前のことで、父母と一緒に納戸で寝ていた頃のことです。布団に入った母が「なんまんだぶつ」と称えているのです。母はよくお寺参

りをしていましたので、そこで、念仏申せと教えられたのでしょうか。それを素直に信じ、念仏によって「はじめに行ありき」ということが、私にもぼんやりではありますが見えてきたのであります。大切なことは、何に取り組むにも、我を捨て師の教えを素直に受け入れる心をもつことであると思います。

もう少し若い時に仏教に出会っていれば、今迄の私の人生がより充実していたものになっていたと思えてなりません。
(「響流」69号 二〇〇七年)

はじめの一步

二〇一六年より始めた聞法会です。入門的なものが欲しいとの声もあり、自由な語りの中で仏教にふれることができることを願って始めた入門講座です。毎月一回(不定日)

定例法話

「定例法話」も住職を継承した昭和六十三(一九八八)年の十月から毎月一回、日曜日の午後一時半から行っています。定例法話は同朋会と違って、住職や坊守の法話を中心にしたものでした。

日曜法座

平成九（一九九七）年一月より、定例法話を日曜法座と改名し、毎月第一日曜日の午後二時から行うようになりました。

御名を聞く会

平成十三（二〇〇一）年の二月から、「日曜法座」を「御名を聞く会」と改名して、親鸞聖人のご命日にあたる二十八日の午後一時半～三時半に聞法の集いをするにしました。内容は、住職と坊守の法話と、お茶です。

平成二十一（二〇〇九）年一月より平成二十三（二〇一一）年十一月までは「百日聴聞会」があり休止していましたが、平成二十四年五月の再開にあたり、住職が「正信偈」を、坊守が「和讃」を取り上げて学んできました。

御名を聞く会に誘われて

丸野 寿夫（小菊町）

仏法には縁遠く気儘勝手の人生を過ごして来た私です。三年前に生涯の伴侶を失い、それが御縁となり、勝福寺様より「御名を聞く会」へのお誘いを受け、お陰でお寺という道場に席を頂いて居ます。聞法の回を重ねても、いまだ何一つとして分からない事ばかり、自我の枠から一歩も踏み出せず、悪衆生の道をさまよって

る次第です。

でも有難いことに、仏法は毛穴から入ると申されています。この御名を聞く会への道も、最初の内は、ずいぶんと遠いものでした。この頃ようやくお寺のもつ穏やかで和やかな雰囲気癒され慣れさせてもらいました。思えばこの事が、まさに毛穴から入って来ているのかと、一人納得しております。

できることなら妻と同伴で御名を聞きたかった。今になって残念でならない。振り返れば、世の中を損得の尺度で見ることが知らず、ずいぶんと狭い人生を渡ってきたものだ。貧乏と雑事に追われ通しで、この広い穏やかな世界を知らずにお浄土へ還った妻に、その機会を用意できなかったことが申し訳なく悔まれます。

聞法を御同伴でなされている方々を拝見しますと、「ああ、美しき哉、人生」とひとごとながら伴せぬ気分にかけて頂いています。今年もできる限り聞法に通い、妻の分も併せ、半歩でも法の世界に近づけたらと思うものです。

〔響流〕66号 二〇〇四年）

写経の集い

頭を使いがちになる聞法会は疲れる、もう少し違う形はないか、ということ、平成十九（二〇〇七）年に「写経の集い」が生まれました。

毎月一回、午後の二時間、ご門徒の丸野寿夫さんに指導していただきながら、お内仏の間で写経

してきました。

これまでに、「正信偈」「歎異抄」「嘆仏偈」や法話を写経しました。

※現在は休止状態

心地よい写経のひと時

向野 理恵（院内）

二〇〇七年に中津から宇佐へ嫁いできて、「写経の会」にお邪魔するご縁を戴きました。生まれ育った家が真言宗の檀家だったものですから、それまでと違う宗派について行けるかどうか、実はとても不安でした。お経もご詠歌も全く違いますし（言葉の並びや曲調など表面的なことが違うので。内容の本質的などころはどうかわかりませんが）、まだまだついて行くのに必死で、未熟者です。

ただ、写経の前に、お経の内容についてお話を聞いておきますと、心の中が、なんとなく実家の仏壇の前で手を合わせているときの感じに似ているような気がいたします。墨のかおりに包まれながら写経をしている時も、時間を忘れ、素の私になることができ、心地よいです。

この一年、ちっともお経についていけずに、今どのあたりを唱えているのかなと毎回焦っている始末で、お恥ずかしいことですが、ご先祖様の前にいるのと同じような気持になれるこの時間をこれからも大切にしていきたいと思っております。

（〔響流〕71号 二〇〇九年）

勝福寺仏教婦人会

かはづの会

勝福寺をわたしの寺に

そしてみんなの寺に！

勝福寺仏教婦人会に入りませんか！

お寺が、私のため、そして、みんなのための
聞法の間（生きる智恵と力がもらえる場）、安
らぎの間になるために、女性の働きは大きい
です。

そこでお寺でも仏法を中心として、和合と
向上のある婦人会をつくりたいと思います。
とりあえず三つの柱を建ててみました。

1. 聞法（仏法に親しみ、人生を味わい直す）
2. 奉仕（清掃や接待…）
3. 親睦（懇親会や研修旅行）

何ごとも一人より二人、そして三人…と仲
間があれば楽しくできます。ぜひ入会してく
ださい。

（「響流」59号）

勝福寺仏教婦人会発足

平成十二（二〇〇〇年）年十二月十二日

第一期（二〇〇〇年～二〇〇一年）

* 仏教婦人会の年度は七月一日、
翌年の六月三十日です。

会長 国廣弘子
副会長 香田紀子
会計 池上美智子
会員 二十八名

おかげ様で一年がすぎました（活動報告）

婦人会長 国廣 弘子

「勝福寺仏教婦人会」が昨昨の十二月十二日
に発足し、ちょうど一年がたちました。聞法・
奉仕・親睦の三つを目的としたささやかな会で
すが、皆様のお力添えを得て有意義な活動がで
きました。

一月十二日、会員の連絡網とひざかけ作り。
七月十九日、別院本堂にて別院の由来をお聞き
した後、楽しく昼食会を致しました。十一月二
十九日、法話「お葬式をつとめる心」をお聞き

し、研修致しました。その他の活動としては、
宇佐組仏教婦人会への参加、春秋の彼岸会の掃
除を致しました。

来年度は、一人でも多くの方がご参加下さい
まして、よりよい会となりますよう願っており
ます。何もわからない私が、この会を通して、
皆様と共に聞法できる機会をお与え下さったこ
とに感謝し、活動報告と致します。合掌

（「響流」63号）

第一回研修旅行

平成十三（二〇〇一）年十一月

宇目の紅葉、善正寺御住職法話、坊守様
精進料理、白杵石仏見学（二十二名参加）



第1回研修旅行 善正寺本堂にて

婦人会研修旅行に参加して

渡辺 末子（常德）

小春日和の日に勝福寺仏教婦人会研修旅行に参加させていただきました。バスには、三光村・大塚・山本・院内・四日市からの参加者で満員でした。「宇目の紅葉を眺めながら南海部郡の善正寺さまにて仏法聴聞と精進料理を」と、お誘いを受け、その日が来るのを楽しみにしておりました。

勝福寺を八時に出発して大分、三重を通り、やがて紅葉した山あいバスは走り、宇目のつり橋に着きました。有名なつり橋を背景に写真を撮ってもらい、おいしい空気をいっぱい吸い込みました。それから三〇分位で稲刈りの終えた田圃と黄色く色づいたイチヨウの木がよく似合う善正寺さまに着き、ご住職と坊守さんが温かく出迎えて下さいました。ちょうどお腹の空いた私たちに、見事な精進料理を用意して下さいました。盛りつけ、味、本当に心のこもったおもてなしでした。ありがとうございました。

ところで、私と勝福寺さまとのご縁は、義父が亡くなってからです。義母の介護で悩んだり苦しんだりしている時に同朋会に参加させていただき、ご院家さんや坊守さん、そこに集まっている方たちからお聞きするお話は、いつも私の心を穏やかにして下さいました。

善正寺さままでのご住職のお話は、ご自身の生い立ちから、母親の病氣、その介護に毎日、久留米の病院に四時間かけて通った事など、今までのご自身の来し方についてのお話でした。そして、私が最も感動したお言葉は、最期の時に「頑張つて」と言った事が、十数年たった今、どうして「よく頑張つたね、もういいよ」と、言つてやれなかったのだろうかとおっしゃったことです。

私自身も身内の死や義母の介護によつて多くの教訓を受けました。そして「人生は出会いによつて豊かになる」という言葉通り、いい人たちに巡り合えました。

きれいな紅葉に囲まれた御本堂の中でお聞きした言葉が深く心にしみとおり、いい旅だったと心から思いました。（「響流」64号）

第二期（二〇〇二年、二〇〇四年）

会長 国廣弘子
副会長 香田紀子
会計 池上美智子
会員 二十八名

第二回研修旅行

平成十五（二〇〇三）年七月

円照寺訪問（住職法話聴聞）柳川・白秋
邸、ブリジストン美術館 三十二名参加

研修旅行の思い出

國廣 弘子（四日市）

「奉仕、聞法、親睦」を目標にして、ささやかな活動をしている婦人会ですが、今年は七月十五日にお寺様のご尽力で行うことができた研修旅行が心に残っています。

それは福岡県大木町の円照寺様や、柳川、久留米を訪ねたバス旅行です。一行三十二名が楽しい一日を過ごすことができました。ことに円照寺様では、道路事情で到着が少し遅れたのですが、暑い中を駐車場に御院家様が迎えてくだ



さいました。御法話は、力強い朗々としたお声で「佛は我が心の中に」と話され、おわりに暁鳥先生の「母の歌」、「十億の人に十億の母あらんもわが母にまさる母ありなんや」の歌を皆で唱和しました。お優しい坊守様はご不自由なお体で接待して下さいました。

また数々の美術品を展示してある館も観せて頂きました。堂内のいたる所に一輪生けてある草花の愛らしさ、優しさ、凛々しさを想い、一期一会の不思議さを感じながら、円照寺を後にしました。

昼食は柳川のお花亭で鰻のせいりむしに舌鼓をうち、そしてドンコ船で水郷めぐり、白秋生家の見学、久留米の石橋美術館での鑑賞を致しました。

今は還浄されました渡辺ミツルさんが美術館への敷石を歩きながら、「もっと時間がほしいなあ。こんな所に来ると心がゆったりなる。良えなあ」と話されたことが思い出されます。すばらしい旅の日だっただけに、もっと多くの方が参加されることを願っております。合掌

(「響流」66号)

報謝の日がスタート

平成十六(二〇〇四)年より「報謝の日」を設け、月に一度、勝福寺の清掃奉仕をすることになりました。

報謝の日に想う

後藤アヤメ (大塚)

勝福寺には仏教婦人会があり、毎月一日に奉仕活動が行われております。私も御縁をいただき、まだ日は浅いのですが、心ある方々にお誘いをうけて参加しました。

その日は本堂をはじめ庭の掃除などをさせて頂きました。皆さん手慣れていて、もくもくと順序よく作業が進んで行くので、私も頑張りました。みんなが集まって何かをすることが少なくなってきた今、私自身、大勢の中の一人で居られることに安心感を覚え、ほっとした気持ちになりました。また作業の後のお茶がとてもおいしく、手作りの御茶うけなども持ち寄られてなごやかな談笑のタネになり、楽しいひとときがすぎます。

七十才近くまで、仏法の教えには深い思いもないうまま過ぎてきて、感謝とか御恩とかの言葉は理解し使うこともありませんが、「報謝」という言葉のひびきにはどのような意味があるのでしょうか。私にうなづけてくるにはまだまだ遠いのかもかもしれませんが、お寺の聞法会に御縁をいただきながら、たずねてゆきたいと思っております。

とにかく、皆さんと共におまいりし、体を動かして、今日一日は本当に快い日であったと思えることが出来ました。これからは皆さんの後に

ついて、出来る限りのことはさせて頂きたいと思えます。(「響流」68号)

第三期 (二〇〇五年～二〇〇七年)

会長 向野順子
副会長 香田紀子
会計 麻生民子
会員 三十二名

ご挨拶

新会長 向野順子

勝福寺婦人会を発足時より、五年間という長い間ご苦労いただいた国広さん、香田さん、池上さん、大変ご苦労さまでした。いつも笑顔でお世話くださった役員さんのお人柄に、どんなにか会員の皆さまは心落ち着かれたことでしょうか。

このたび、六月末の総会において、私たち三名がこれから三年間のお世話をするよう選ばれました。私たちのような無力の者がバトンをいただき、本当に心配していますが、精一杯つとめたいと思っております。

煩惱具足の身で毎日を打ち過ごしてしまいがちですが、ふと心休まる場所、「安心して我が身を仏様の前に置かれる場所」があるとすれば、こんな幸せなことはないのではないでしょ

うか。会員の皆さまと仲良く歩んでまいりたい
と思っておりますので、皆さまのご協力を切に
お願い申し上げます。

南無阿弥陀仏

第三回研修旅行

平成十七（二〇〇五）年十一月二十二日

山口県長門市・金子みすゞ資料館

青海島遊覧 参加者二十八名

「金子みすゞ」を訪ねて

久保 ひろみ（中津・全徳）

「金子みすゞを訪ねる婦人会の研修旅行に行
きませんか？」と住職様よりお誘いを受けまし
た。前から一度、仙崎の記念館を訪ねたいと思っ
ていましたので、うれしくなり参加することに
決めました。運良く今回は友達も同伴となり、
楽しさも倍増しました。

当日は朝七時半出発、午後六時半帰着の遠出
でした。行ききのバスの中で、みすゞの半生をビ
デオ鑑賞しましたので、記念館に着いてから、
説明もわかりやすく思いました。館内も私が想
像していた以上に工夫され、立派なものでした。
何より、みすゞの童謡詩は、どれも心打つもの
でした。

代表作は「大漁」だそうです。

朝焼小焼だ大漁だ
大羽鰻の大漁だ。

浜は祭りのようだけど

海のなかでは何万の

鰻のとむらいるだろう。

二十六歳で生涯をとじるまでに五二編の詩
を残したそうです。館内にまだ居たい気持ちで
したが、帰りに「金子みすゞのいのちのうた」
を一冊買いもとめました。

この日は記念館以外にも、青海島遊覧や、レ
ストラン昼食、お土産ショッピング等、盛りだ
くさんで本当に楽しい一日となりました。

この旅行で、金子みすゞがますます私にとつ
て身近に感じられるようになりました。みすゞ
の世界にふれるこ
とにより、毎日、
目の前の雑事に追
われて、セカセカ
と過ごしている自
分から解放される
思いがします。

最後になりました
が、旅行を計画
してくださった婦
人会役員様、住職、
坊守様に、お礼を
申し上げます。

（「響流」68号）



勝福寺仏教婦人会の名称

「かはづの会」となる

*平成十八（二〇〇六）年総会

「かはづの会」という名は黒田沐山居という方の
詩からいただきました。その詩と、その詩について
の松原祐善先生の解説をあげておきます。

（香田紀子）

かはづ

黒田沐山居

「生れかはり

生れつぎまして

いまは はや 草き 木き

石さへ 風さへ

南無や 仏

仏ならぬは……」

ややややに足を伸ぶれば

母が腿のあたり

ぬくぬくし児が蹠

「ちぢに鳴く

田の蛙のは

母よ 何

「彼こそは法蔵比丘よ

おぼろ夜に

村の人どち寝むまき

思い砕かす菩薩どちなれ」

黒田沐山居の詩集の一つに『かはづ抄―南無母のうた』
というのがあり、その最初に「かはづ」と題する一篇の詩
が置かれています。…

彼の母はその生涯をこの田舎の百姓婦として、土に生き
る念仏者、妙好人の一人でありました。

私は彼の詩の一篇の物語をこのように理解しているの
です。

朝まだきより村人たちは起きいでて、終日泥んこになっ
て働く田圃であります。人々は一日の労働を終えて、みな
わが家に引き上げました。今はもう人影もない、夜のとぼ
りもおりたその田圃であります。折から蛙の音が静寂の夜
の天地に響きわたってきたのであります。そのとき「田の
蛙めは、母よ、何？」と懐ふとろに抱いたわが子に問われ、その
母は当然のごとくに「かれこそは法蔵比丘よ」と答えてい
ます。

ここに一日の田作りの労苦は無限の意味をこめて感謝さ
れ、そして、なによりも煩惱の泥田を離れたまわらない久遠
のみ親のいますこと、そのみ親が目のあたり田圃の蛙となっ
て、われわれ凡愚を無明の夜の深い眠りより喚びさまし、
その声は十方法界に響きわたり、われわれの心魂にしみい
るのであります。土から生まれ、土に働き、土の恵みに生
きて、また死して土のふところへかえるのであります。生
涯を田作りの労働に生きる百姓の生活には、わが久遠のみ
親は泥の田に両手をつけて伏せる蛙めにも似て、大地にひ
ざまづき、ついに南無の座を離れたまわないのであります。
まさに、大地とは生きとし生きるものの宿業本能の大地で
ありましよう。かくのごとく、田圃の泥を離れえない百姓
生活には、アミダほとけの無量光・無量寿の御いのちは、
煩惱無尽の泥田のなかに仰がれていたのであります。

勝福寺仏教婦人会の歌

「かはづ」によせて

詞 藤谷純子

曲 林 良夫

「われらのよるべ」より

一 春来たれば 大地はほどけ

田おこしの 業わざぞせかるる

法のりの水 田に満ちくれば

かはづどち 群がり歌う

二 あめつちの めぐみのままに

かはづらの 歌うを聞けば

遠き日に われをはぐくむ

ふるさとの 母ぞ恋しき

三 たらちねが 添い寝の夜ごと

おごそかに われに聞かせし

法蔵びく比丘の 御物語

いとけなき ころにしみぬ

四 法蔵菩薩 因位いんにの昔

ものみなの 安らう国を

建てんと願ひ 六字の御名みなに

み誓いこめて われらを招く

五 罪と障さわりに 悩めるわれら

み仏の 呼ぶ声聞けば

生きる身に 歎びぞ湧く

尊とからずや 人の命の

六 泥田に住みて いのち寿ことほぐ

かはづらの 念仏ねぶつを聞けば

われらまた 淤泥おどいに生おうる

蓮はちすとぞ いのち咲かせん

七 もろともに 阿弥陀仏ほとけの

大いなる 願いを受けて

苦しみの この世抱きて

悲しみの 光に生きん

黒田沐山居さんの詩に基づき坊守
が作った「かはづの会」の歌です

勝福寺婦人会上山奉仕研修

平成十九(二〇〇七)年五月十一日〜十四日の三泊四日の日程で、ご本山での奉仕研修と京都・比叡山の聖跡巡拝を行いました。参加者は十五名でした。その時の感想文の一部を載せてさせていただきます。(「響流」70号)



○充実した二日間でした。でも少し疲れました。八年前にお参りした時よりも、自分の心の中を見つめ、真剣に考えたからだと思います。いつも、行きつ戻りつしながら、最後はいつもマイナス思考になる自分の心。「人間の愚かさは何事に対しても答えを出そうとすることにある」と先生から言われましたが、本当にその通りです。(國廣弘子)

○先生方のお話を聞き、一つ一つの言葉が身に余るものでした。(渡辺美佐子)

○自分の人生はこれでいいのだろうか。漠然とした不満、不足の考えが、このところ湧き出ていました。高橋法信先生の講話を聞き、自分の物差しで善し悪しを決めていたことに気づかせて頂きました。自分だけが悲劇のヒロインになっていたように思います。そして、自分を見捨てていました。今は、帰敬式を受け大変嬉しく思っています。(池上美智子)

○阿弥陀堂の厳かな勤行の中、帰敬式を受け、身の引き締まる思いでした。みんなから祝福され本当に嬉しく思いました。(後藤アヤメ)

○上山して、ふと四日市の別院の中にいるような気がしました。ずっと大きく広いけど、なんとなく同じに感じるのです。(外園エイ子)

○本堂の庭の木々は青葉、若葉のよい季節でした。：頂いた法名に恥じないよう毎日精進していきます。(長尾正子)

○本山へのお参りは二回目でしたが、何もかもが懐かしく思われました。(大迫十四子)

○法話を聞いてもなかなか理解できないこともありすが、：ちよつと立ち止まって考え聞こうちに、気持ちがお楽になってきました。(加来周子)

○帰敬式を受け「釈尼信知」という法名を頂きました。できの悪かった私ですが、新しい人生の出発です。又、いつか上山します。(松本知代)

○お寺にはお参りするけど教えが身につかない私です。：本堂での厳肅な帰敬式を心の中に受けとめて日々安らかに過ごしていきたいです。(麻生民子)

○この上山奉仕は言葉で語れるものでなく、参加してみないと感じ取ることは出来ないものと思います。(向野順子)

○「後生の一大事、夜明けができたかや！」仏さまからの呼び声に「はい！」と返事が出来るのが願いです。(香田紀子)

○小さな世間を生きてきた私が大きな仏の世界に抱き取られ産声をあげる御縁となりました。(佐藤麗子)

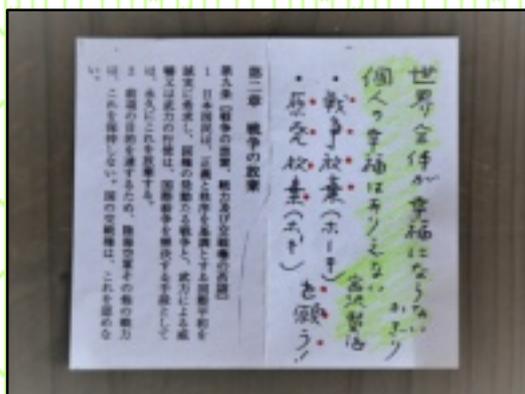
○御影堂の工事現場の見学、帰敬式の参加、諸殿拝観など、前回よりも感動しました。(吉松妙子)

「戦争ホーキ」

平成十九（二〇〇九）年五月、婦人会でご本山にお参りした折、高橋法信先生から「お母さん、自分の子供を戦争に送り出せますか?」と問われました。

勝福寺に帰ってから皆で話しあい、坊守さんの提案で「戦争ホーキ」を作ることにしました。

そして、出来あがった「戦争ホーキ」は、八月六日の「平和授業の日」に四日市南小と豊川小の六年生に貰ってもらいました。



*東日本大震災、原発事故後「原発ホーキ」も加わりました。
*「戦争ホーキ・原発ホーキ」は、二〇一九年の今も、途切れることなく作り続けられています。

「戦争ホーキ」に平和への祈りをこめて

婦人会長 向野 順子

婦人会の方々と「戦争ホーキ」を作りながら、六十二年前満州（中国東北部）を引き揚げた当時のことが思い出されてきました。

昭和二十年八月十五日敗戦の報せとともに引き揚げの準備が始まり、北満の孫呉から長い長い引き揚げの旅が始まりました。父は軍人なのでシベリアへ抑留されることになりました。私達は真夏の太陽が照りつけるコウリヤン畑を、何百人の人々と、何日も何日も、汗と埃にまみれて行進しました。

食物も飲み物もなく、列から離れることは死ぬことでしたし、バタリと倒れたまま死んでゆく人が多かったのです。ようやく着いた新京で一年を過ごし、二十一年九月二十四日葫蘆島から船に乗ることができました。



大きい船の底に

何千人と詰め込まれ、座ったまま、ご飯はゴツゴツしたコウリヤンご飯に、干した芋の茎の入った岩塩のおつゆでした。日本を目の前に亡くなる方もあり、遺体は毛布に包んで海に葬り、船はその周りを三回廻って見送ったのでした。

佐世保に着いた時の喜びは、今でもよく覚えています。院内に一人留守番をしていた祖母は、芋もちをたくさん作って待っていてくれました。それから貧しい戦後の生活が始まりました。

今こうして生きておれることに感謝するとともに、生き残った者には亡くなっていった人々の願いを伝えていく使命があると思っています。貧しくてもいい、お互いの命を尊び、戦争を起こさない努力をしてゆきましょう。



第四期 (二〇〇八年～二〇一〇年)

会長 香田紀子
副会長 渡辺美佐子
会計 渡辺末子
会員 三十三名

「かはづの会」この一年の歩み

副会長 渡辺 美佐子

私は仏教婦人会の役員をするようになり、何もわからないまま七ヶ月が過ぎようとしています。その間、秋の彼岸会では坊守さんや仏教婦人会の皆さまと一緒に、親鸞聖人の奥さまのお手紙をもとに渡辺愛子先生がお作りになった「花ごぶし」の朗読と合唱をすることができました。これも仏様の導きと思います。

今年はその以外にも、二月に灯籠の布を使って内敷き作りをしました。五月には、研修旅行で永福寺、二階堂美術館、九重夢大吊橋などに行きました。

また、今年も「戦争ホーキ」を作って、八月六日の平和授業の日に四日市北小と深水小の子供たちにプレゼントしました。

その他、毎月の報謝の日、法要のお手伝いなど、婦人会の皆さまのご協力を得て楽しく活動できました。

二〇〇九年も、心の安らぎを求めてお寺に参

りたいと思います。

感謝の気持ちを込めて、ナムアマダブツ

(「響流」71号)

「花ごぶし」に出会えて

奥永 益代 (深水)

私は、五十歳をこえてはじめてお寺のご縁を頂き、秋の彼岸会にお参りしました。そのときに、親鸞聖人の妻の恵信尼さまをしのぶ「花ごぶし」という名の詩の朗読と歌を歌うことになりました。

九月になってから、週二回の練習が勝福寺で始まりました。初めは高校時代の古文のようで、詩の内容がわかりませんでした。坊守さんより詩の説明をして頂き、恵信尼様が親鸞聖人を尊敬していることが理解できました。歌は向野優子先生の素晴らしいピアノ伴奏に合わせて練習し、本番のステージを迎えました。当日は白のブラウスと黒のロングスカート、そして胸には秋明菊の生花を挿して、ママさんコーラスのような素敵な容姿になりました。大勢の人前で大変緊張しましたが、無事に詩の朗読と歌を歌うことができました。一緒に練習した「かはづの会」の皆さんと知り合いになり、「花ごぶし」を作詞された渡辺愛子先生にもお会いできました。仏教婦人会の会員になり、貴重な体験をさせて頂き、本当に感謝しています。

(「響流」71号)

第四回研修旅行

平成二十(二〇〇八)年五月九日

これ以降、婦人会の垣根をとって、勝福寺全体に呼びかけた研修旅行となる。

二階堂美術館・別府市鉄輪の永福寺に
恵信尼の御影像参拝・久住方面にて絵
画や夢の大吊橋見学 (45名参加)



第五回研修旅行

平成二十二(二〇一〇)年六月二日

宝光寺参詣(玖珠町) 住職法話・わらべの館「久留島記念館」(玖珠町)・広瀬資料館・小鹿田焼窯元 (21名参加)

研修旅行報告

加来 周子(院内)

平成二十二(二〇一〇)年六月二日は勝福寺婦人会の研修旅行でした。目にまぶしい緑の中をバスで抜け、まづ九重町の宝光寺へ、高藤先生のご法話を聞きました。幼い頃、友人の死に大人の称えるナムアミダブツが耳に残ったこと、そして今日に至る半生をお話して下さいました。

バスに乗って振り返ると、先生が崖の上から手を振っていらっしゃいました。

久留島武彦記念館、広瀬淡窓資料館等で郷土の先哲の方々の偉業を目にすることが出来、感



動を覚えました。昔の民芸品、玩具、道具等、日頃見る機会もありませんので興味深く見学することが出来ました。皿山に着いた時には、雨も本降りになっていましたが、皆あちこちの窯元を見て廻り楽しい有意義な一日でした。

婦人会の総会、年に数度の報謝の日、「戦争ホーキ」作り等の行事、時には皆で会の歌「かほづによせて」を歌います。回を重ねますます親睦が深まっていくようです。(「響流」73号)

第五期

(二〇一一年～二〇一三年)

会長 佐藤麗子
副会長 中園志津子
会計 渡辺玲子
会員 三十七名

願いの中で

婦人会長 佐藤 麗子

平成二十三(二〇一一)年七月の婦人会総会で役員改選があり、中園志津子さんと渡辺玲子さんと私の三人が、香田さん、渡辺美佐子さん、渡辺末子さんの後を継いで、三役を引き受けることになりました。これまで同様ご協力を宜しくお願いいたします。

香田さん、美佐子さん、末子さん、三年間、有り難うございました。ことに香田さんは婦人

会発足時より役員として会の運営に尽力してくださいました。本当にご苦勞様でした。

「一人でも多くの方に教えに出遇って欲しい」と、住職さん坊守さんお二人の願いで発足した婦人会とお聞きしております。親睦、聞法、報謝を目標に掲げて活動していますが、十一年たつた今、三十七名の会員がいます。

この半年間の活動ですが、月一回グループごとに清掃奉仕を行いました。また会員さんの提案で「ゴキブリ団子」を作りました(八名参加)。

それから後藤アヤマさんより提供していただいた手染めの絹糸を使い手編みの菜なまめを作りました。それに平和を願うメッセージを添えて、八月十五日の平和の鐘の参加者や秋季彼岸会の参詣者にお渡ししました。彼岸会では、お茶菓子に奥永愛子さんに教えてもらって「石垣餅」を作ったところ「とても、美味しい」と好評でした。

今年は二年に一度の研修旅行があります。勝福寺の皆さんと一緒に、鹿児島島の隠れ念仏や知覧の特攻記念館に一泊二日の日程で行く予定です。多数のご参加をお願い致します。

平成十九年の婦人会上山奉仕研修の時、高橋法信先生から「お母さん、自分達の子供を戦争に出せますか」と問われた言葉を思い出します。今、時代こそ違いますが、人間の在り方が問われているのではないのでしょうか。東日本大震災、原発事故による目に見えない放射能。未来をになう子供や地球上の多くの命に、取り返しのことかない罪を犯してしまいました。こうしたことも課題として、住職さん坊守さんを中心に話し

合いの場が開けたらと思っっています。

あの先生のご法話を聞きたい、こんな物を作ってみたい、気楽におしゃべりできる会座えざが欲しいなど、皆様の率直なご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。

お寺に身を運び、大きな願いの中、共に教えに照らされて歩んでゆきましょう。 合掌

(「響流」74号)

第六回研修旅行

平成二十四(二〇二二)年七月三日～四日

鹿児島県へ「隠れ念佛」の史跡
知覧の「特攻平和記念館」(22名参加)



隠れ念仏洞



隠れ念仏洞へ至る山道

婦人会活動を振り返って

婦人会会計 渡辺 玲子

お寺にご縁をいただき、婦人会の役員をさせていただくことになり、早いもので、もう二年目が終わろうとしています。日頃お寺に疎遠でなにも分からない私に役員が務まるのだろうか、と不安でしたが、「無理をしないで、来れるときに来てくれたらいいのよ」と言われた坊守さんの言葉に押されて役員を引き受けることにしました。

その間お寺の行事や子供会の行事、婦人会の行事として報謝の日のお掃除や塩麴作り、茶菓子作り、帽子作り、研修旅行等いろいろな活動を通して、住職さん、坊守さん、役員の方々、婦人会の皆様方のいろいろなお話や体験談を聞く機会をもてたことは、私にとつて大変勉強になりました。

現在、婦人会の会員は三十七名です。仕事や家庭の都合で全員が集まるのはなかなか困難ですが、できるだけたくさんの方々に会員になって頂き、一緒にいろいろな研修や活動が出来ることを願っています。私も残りの任期をがんばって務めたいと思いますので、皆様よろしくお願ひいたします。そしてたくさんの方々の参加をお待ちしています。

第七回研修旅行

平成二十六(二〇二四)年七月一日～二日

長崎の万行寺参詣(住職法話)

原爆資料館(被爆体験者の講話)

浦上天主堂、九十九島遊覧、伊万里焼き

(38名参加)





夜の宴会は「ひよっとこ踊り」で大盛り上がり。
それにしても、誰なんでしょう？



第六期 (二〇一四年～二〇一六年)

- 会長 松尾由美子
- 副会長 若林範子
- 会計 佐藤麗子
- 会員 三十七名

第八回研修旅行

平成二十八(二〇二六)年十一月三日～四日

伊方原発見学
伊予松山散策の旅
(22名参加)



第七期 (二〇一七年～二〇一九年)

- 会長 松尾由美子
- 副会長 渡辺久仁子
- 会計 松本知代
- 会員 四十一名

以下は、二〇一八年度の総会に出された「二〇一七年度の活動報告」です。ご覧の通り、婦人会が勝福寺の活動を支えて下さっていることがよく分かります。ここにその記録を載せておきますが、今後もこのようにしなければならぬ、というものではありません。いつも、その時々状況に応じて活動してきました。「出来る時あり、できぬ時あり」が「かはづの会」です。

二〇一七年活動報告

(二〇一七年七月一日～二〇一八年六月三十日)

*かはづの会・総会 二〇一七年六月二十九日

研修・講師 太田映子様

講題 「子どもたちに伝えたいこと」

腹話術 藤谷純子

「今日こそアベさんに手紙を書くぞ！」

*報謝の日

7月19日 (10人)	9月13日 (16人)
10月19日 (8人)	11月16日 (11人)
3月21日 (7人)	4月11日 (21人)
5月21日 (9人)	6月30日 (9人)

二〇一七年度 報謝の日グループ分け

Aグループ (世話人・松尾由美子)

松尾由美子・中園志津子・渡辺美佐子・麻生民子・佐藤富貴子・長尾正子・外園エイ子・国広弘子・奥中ヤスミ・中園れい子・矢頭明美・渡辺信子・山本由美子・藤谷純子

Bグループ (世話人・松本知代)

佐藤麗子・香田紀子・後藤あやめ・松本知代
矢次益子・佐々木のり子・佐々木久子・佐々木寿子・本ミチエ・権藤玲子・池上美智子・宇野美智子・麻生恵子・矢部禮子

Cグループ (世話人・渡辺久仁子)

若林範子・渡辺玲子・渡辺末子・外園淑子・渡辺久仁子・向野順子・奥永愛子・奥永益代・奥永正子・加來周子・権藤孝子・安部節子・木下昌子

*平和の鐘を撞く集い 二〇一七年八月十五日

・映画鑑賞「夕風の街 桜の国」

*秋季彼岸会 二〇一七年九月二十九日～三十日

・おにぎりとしのおかずをだす

・チャリティバザー 収益金(69670円)

は津久見市の水害被災者の支援に。

*わすれな鐘を撞く集い 二〇一八年三月十一日

・映画鑑賞「九条改憲って何！」

憲法カフェ

*春季彼岸会・降誕会

二〇一八年四月二十四日～二十五日

・花御堂を作る。茶菓子は桜もち

*勝福寺「たんぽぽ子供会」にスタッフ参加

夏休み 二〇一七年八月二十一日～二十二日

冬休み 二〇一七年十二月二十八日

春休み 二〇一八年四月六日

*イキイキかはづの会活動

戦争ホーキ作り 二〇一七年八月三日 十人

ケーキ作り 二〇一七年十二月二十二日 十三人

「ミンダナオ子ども図書館」の勝福寺公演に協力参加(食事の手伝い)

二〇一八年四月二十五日

*勝福寺・親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け聞法会 受付等のお手伝い



今日こそアベさんに手紙を書くぞ!



2017年6月29日
かはづの会・総会の様子

勝福寺

たんぽぽ子供会

一九九九年の夏に発足した勝福寺たんぽぽ子供会は、子どもたちが休みになる、夏休み・冬休み・春休みに、門徒さんの子弟を中心に開催してきました。

これまでに五十三回開催し、延べ参加人数は九五〇人にもなりません。

最初に参加した子供たちのうち、最年少だった小学校一年生の子も現在は二十八歳、最年長の中学校一年生は三十四歳にもなっています。

子供会を立ち上げたときの思いや、これまで参加した子どもも手伝っていたいただいたスタッフの感想を写真を通してながら振り返ります。



念願だった子ども会

念願だった子供会を開くことができました。いろいろな心配もありましたが、子供のエネルギーが運んでくれるだろう、子供に元気をもらおうと、そんなのん気さもあってスタートを切りました。

子供を誘おうと思ったら子供のいないのにビックリ。でも、元気な二十七人が集まって、本堂はいつになくひっくり返り、仏様もドキドキそしてワクワクしたでしょう。

お手伝い下さった二人のお母さん、若いお姉さん、元校長先生の向野さん、そして次男の信と、いいスタッフに恵まれました。

今号は子ども会特集として、みんなの感想文をのせることにしました。どうぞお読みください。そして、子供たちの未来が明るいものとなるよう今後の勝福寺子供会へのご支援・ご協力をお願いいたします。
(「響流」58号)

第一回子ども会・参加者

しょうぶくじ子ども会に参加して

渡辺 千佳（四日市南小三年）

わたしは、しょうぶくじ子ども会に行つて、一番心にのこったことは、おきょうです。だいたいおきょうは十五分くらいで終わるそうです。足がしびれていたくなつたけど、がまんしてよみました。とてもおきょうはむずかしかったです。記号があつてなかなかついてゆけませんでした。

二番目に心にのこったことはカレー作りです。きれいにタマネギやキャベツのかわをむきました。ジャガイモは土をおとし、みをむかないように気をつけてむきました。切るのやたくのはわたしはできなくてざんねんでした。カレーをつぐとき、おかあさんが来て、ヤクルトとゼリーをもって来てくれました。カレーの味はおいしかったです。わたしのまえの人は、とてもおいしそうにいそいで食べて一番におかわりをしました。

みんなで作ったアイスもおいしかったです。少しとけていただけ、みんなで作ったの自分一人で作ったのは味がちがつて、みんなといっしょに作った方がおいしいな！



と思いました。

きもだめしも楽しかったです。おはかをとおるのだけはこわかったです。また、そんなぎょうじがあつたらいいなと思いました。しょうぶくじ子ども会は、夏休みの思い出です。

（「響流」58号）

勝福寺での感想

木下 実彩（和間小四年）

私は、勝福寺で一番楽しかったのは、きもだめしです。なんとぼうもりさんがお岩さんになって、そのあと、鬼のお面を持って「これではどうだ！」



と言つておどかしてきました。

二番目に楽しかったのは、ジャンケンゲームです。私はジャンケンゲームで勝ったか負けたか、一日でわすれてしまいました。でも、とてもおもしろかったです。それで、またあつたら行こうと思います。

（「響流」58号）

勝福寺子供会に参加して

吉松 香菜子（駅川中一年）

お寺に泊まり、それもおじゆずを持つてのキャンプは生まれて初めての経験でした。ドキドキワクワクしながら参加しました。受け付けで「勤行集」をいただきました。最

初、自己紹介がありました。しおりを見ながら、顔と名前を覚えていきました。

次に歌の練習がありました。私が一番気に入ったのは「バラバラで一緒く〇△□のうた」です。人間、だれもが違う姿や夢や心をもっているのだから。

そして、いよいよお経の練習。祖母の家で、昨年亡くなった祖父を思つてお経をあげているので、すつと心の中に入つてきました。さすがに人の前では恥ずかしかったです。

夕食はカレーでした。食前の言葉、食後の言葉を知り、食のありがたさを思いました。

盛りだくさんのキャンプメニューでしたが、勝福寺のみなさん、そして仲間達の力で無事終了しました。機会があつたら京都に行つてみたいと思ひました。

（「響流」58号）

第一回（一九九九年）

仏さまに近づいて

スタッフ 田中 喜美子

現代は核家族が多く、仏壇が無い家も多いのではないだろうか。我が家も、多分にもれず、母屋が同じ敷地内にあるとはいえ、一応、核家族。仏壇の無い生活を送っています。子供達は仏様に手を合わせた事もなく、もちろんお数珠を手にもすることもありません。

子供達は想像していた通り、皆元気がよく、本堂で走り回ったり、ボール投げをする始末、

障子が破れるのを心配する私に「破ればまた張り替えればいい」の一言と優しい眼差しに心あたたまる思いがしました。元氣一杯の子供達でも意外に思ったことがひとつ。お経の練習にとても真面目に取り組んでいたのが印象的でした。初めてのことで新鮮に映った子供達もいるでしょう。

子供達に出来るだけさせようと思い、意外に時間のかかった夕食のカレー作り。科学の目を輝かせワアワア、キャーキャー、ドライアイスを使つての香田洋江さん発案のバナナシャーベツト？ 皆で作って皆で食べる夕食は最高！ 冷たくてほんのり甘いシャーベツトの美味しかった事。

きもだめし、お泊まり、向野先生との折り紙遊びなど、色々な事を経験した子供にとつて、今回は何より初めて仏様に触れた貴重な二日間を過ごしたのではないのでしょうか。

日々の生活に追われる毎日にちよつと立ち止まり、子供達の元氣のよさに圧倒され、少し疲れつつも新鮮な時を過ごさせていただいたことに感謝しています。（「響流」58号）

第十四回（二〇〇四年夏）

お寺にとまった夏休み

久保 祐介（今津小三年）

いかだに乗ったら、ごてんとひっくりかえりました。けがをしないでよかったですけど。川

のそこには石がいっぱいで、足のうらがいたくなりしました。

その後、目かくししてスイカわりをしました。ボクはわることができませんでしたが、とてもたのしかったです。

深い川でボートに乗ると、すぐにかんできました。夕方には外でやき肉パーティー。田中温さんであせを流してお寺でねむりました。（「響流」66号）

第十七回（二〇〇五年夏）

たくさんのけいけん

吉田 尚生（四日市南小四年）

ぼくは、子供会に三年生のころからさんかしています。

川やたきに行つて、およいだり、スイカわりをしました。山にも行つてカブトムシをとりました。

お寺ではいろんなものを作りました。紙ずもう、ハロウインのかざり、まんげきよう、ふうりんなど。紙ずもう大会はとももりあがりました。

夕ごはんはみんなでカレーを作つて食べたのがおいしかったです。夜はみんなで本堂にとまりました。暗くて、ぶつぞうが



あつて、何か出て来そうで、けっこうこわかったです。でも、何も出て来なかったです。

子供会は学校とちがつて、いろいろ作つたり、いろんな所につれて行つてくれて、たくさんのけいけんができるので、楽しいです。だから、これからもさんかしたいです。（「響流」69号）

子ども達との貴重なひと時

スタッフ 佐藤 昭典

ここ数年、子供会のお手伝いをさせてもらっています。自分が子供の頃と比べると外で遊ぶことが少なくなつたと思います。初めそういう子供達が楽しめるのだろうか？と考えていました。しかし実際行つてみると、お寺の境内や川などで元気に遊び回つていたのでした。クールに入つて仲良くなつていました。

工作作りも予定していた時間をこえるほど集中して作っていました。

時間潰しになればと軽い気持ちで考えたのですが・・・。

作り始めるとそれぞれが自分らしい絵を一生懸命描い



ていました。そのかいあって、みんな別々のオリジナルなものが出来上っていたと思います。店でちゃんとしたものを買えるけど、そういう物を一生懸命作ってくれる、考えたほうとすればスゴク嬉しいことですね。結局子供はいつの時代も、やっぱり変わらないんだなあと感じました。

お寺の子供会に来たりお経をあげられる子供達自体イイ子で特別だとは思いますが。そう考えると時代が進むにつれ、昔と変わっていくのは大人の方かも知れませんか。

子供達と川で泳いだり、自分の子供の頃を思い出したりと、とても貴重な時間を過ごすことができました。（「響流」70号）

第二十五回（二〇〇八年）

夏のたんぼぼ子供会の思い出

かい 葉月（四日市南小四年）

子ども会は春夏冬にあります。その中の一番楽しかったことを書きます。

一番さいしょにあみだ如来様の前でみんなとおきょうをあげます。それからたきに行つてポートやうきわで遊びました。夜は作ったおめんをつけ



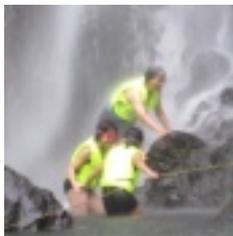
て、ちようちんを持ってひびき山に行きました。すこしこわかったです。ねるときは、かやの中でねました。ものすごく楽しかったので、また、たんぼぼ子ども会に行きたいです。（「響流」71号）

第二十九回（二〇一〇年）

川遊びとスイカわり

丸野 文音（豊川小五年）

たんぼぼ子供会で楽しかったのは、川遊びとスイカ割りです。川遊びをした場所は、思ったより水温が低くて、川の中に入ったときすごくさむく体があるえました。滝の近くに行つ



たときは、水しぶきが顔にかかって前が見えなくなりました。でも滝を近くで見ると、岸から見ると二倍くらいでかくてびっくりしました。そのあと泳いでいて、さむくなったのでポートに乗りました。

でもそのときポートの中に水が入ったのでたいへんでした。川で泳いだあとスイカわりをしました。そのときは、ぼうがスイカに命中したので、うれしかったです。なので来年も川遊びとスイカわりをしたいなあと思いました。（「響流」72号）

第三十二回（二〇一二年）

たんぼぼともかいとんかして

おおいし そうた（高田・桂陽小二年）

ぼくがいちばんこころにのこったことは、みんなでスイカわりをしたことです。

うまれてはじめてだったので、ぼくはわれなかったけど、あまくてもおいしかったです。

二ばんめにこころにのこったのは、ヨーヨーすくいをしたことです。ほんとうは、二こか三こぐらいとれて、まだまだとれたけど、わざとフックをみずにおとしました。

あと、きもだめしやおきょうをよんだこともたのしかったです。（あしがしびれたけど）ま



あちやんのおにぎりとかレーライスもすごくおいしかったです。

また、らいねんもさんかしたいとおもいました。
（「響流」74号）

第三十五回（二〇一二年）

たんぼぼ子供会の感想

八重垣 太佑（四日市南小五年）

たんぼぼ子供会で楽しかったことは、夏、富貴野の滝でスイカ割りをしたことです。

スイカ割りをするとき、一回目は硬くて割れなかったので二回目は大きい声を出して力一杯スイカ割りの竹を振り下ろしたら、竹が折れてしまって、みんな大笑いでした。



次に楽しかったのは、みんなで犬の散歩に行ったことです。遅れている人や早く行っている人がいて、待っていたり追いついたりするのが大変だったけど、みんなではしゃいでいたので楽しかったです。犬と遊ぶのも楽しかったです。また、たんぼぼ子供会でみんなと泊まつたり遊びに行ったりしたいです。
（「響流」75号）

第四十回（二〇一四年）

たんぼぼ子ども会だんさんかして

渡辺 将輝（四日市南小三年）

ぼくは、この会に出ていろんなことをまなびました。一つ目はお経です。漢字がたくさんあってべんきょうになりました。二つ目は命の大切さです。

植物や生きものをだいじにしたいです。三つ目は友だちとなかよくすることです。きもだめし的时候、火が消えたら友だちが火をつけてくれたのでうれしかったです。やばけいのサイクリングロードでは、風にふかれてこいだ自転車。たつきりけいこくでは、はりきってゴーグルをもってきたのに、にごっていても見えませんでした。だから魚が一ぴきもとれませんでした。だげきせつによっていろいろな遊びをさせてくれてとても楽しかったです。これからたくさんなことを教えてください。
（「響流」77号）



第四十六回（二〇一六年夏）

おてらのがっしゅく

むくの ゆめ（院内北部小一年）

しようふくじさん、こんにちは。がっしゅくのとき、おせわになりました。しってるこがないくて、はじめは、どきどきしました。

でも、たきにいったときに、こえをかけてくれたこがいてうれしかったです。たきがとちゅうでふかくなったので、きんちようしました。ぼーとにのったときに、こげなかつたけど、たのしかったです。そのあとすいかわりをしたとき、すいかにうまくあたらなかつたので、われなかつたです。おてらにかえってごはんをたべました。おいしかったです。はじめてかやをつかってねました。よくねむれました。ふつかめのまじつがすごかったです。またいきたいです。
（「ひびき」83号）



耶馬溪サイクリング

播 ひかり（四日市北小三年）



春休みの子ども会は、おしゃかさまにお花をかざった後、サイクリングに行きました。やばけいについて、お友だちと、じてんしゃをこぎながら、いっしょにお話をしました。テレビのしゅざいがあつて、「風が気もちよくて楽しかったです」といいました。

その後、川らでバーベキューをしました。外で食べたので、とくべつに、おいしかったです。いつも、おせわをしてくれる、おしちゃんや、おはちゃん、ありがとうございます。こんどの子ども会も楽しみです。

（「ひびき」86号）



2016年冬



2018年夏



2009年夏



2009年冬



2012年春



2017年8月 富貴野の滝



間鍋(2011年冬)



2012年春

勝福寺「たんぼぼ子供会」のあゆみ

年	回数	時季	参加者	行事内容
H11 (1999)	1	夏	27	8/19～20
H12 (2000)	2	冬	31	1 / 7 闇鍋
	3	春	20	4 / 6 響山
	4	夏	23	8/21～22 岳切溪谷
H13 (2001)	5	冬	18	1/6 凧作り、お手玉作り
	6	春	28	4/6 御許山登山、チャンバラ大会等
H14 (2002)	7	夏	23	8/20 富貴野の滝、コマ作り ※台風の為「よかろうパーク」でのキャンプを变
H15 (2003)	8	冬	24	1/4 中国留学生付蓮花さんとの交流
	9	夏	29	8/26～27 深見川川遊び、本堂での蚊帳を吊ってのお泊まり
H16 (2004)	10	冬	22	1/15 凧作り、読み聞かせ
	11	春	23	4/4 竹とんぼ作り
	12	夏	22	8/25～26 深見川でボート遊び、紙芝居、本堂での蚊帳を吊ってのお泊まり
H17 (2005)	13	春	29	4/6 花祭り、腹話術、オリエンテーリング等
	14	夏	26	7/26～27 深見川でボート遊び、絵日記作成、ファッションショー等
H18 (2006)	15	冬	25	1/4 風船遊び、ブーメラン作り、カルタ会等
	16	春	19	4/2 花祭り、鷹居神社防空壕探検
	17	夏	24	8/17～18 富貴野の滝遊び、箱相撲、夜の星見学等
H19 (2007)	18	冬	21	1/8 万華鏡作り、カルタ大会等
	19	春	18	4/6 花祭り、御許山での団子汁
	20	夏	19	7/28～29 深見川での川遊び、お寺でお泊まり、風鈴づくり等
H20 (2008)	21	冬	21	1/5 凧作り、読み聞かせ等
	22	春	21	4/4 花祭り、貝掘り
	23	夏	20	8/24～25 駅館川での川遊び、お寺でお泊まり、模型飛行機作り等
H21 (2009)	24	冬	14	1/6 段ボールロボット作り、けん玉遊び等
	25	夏	20	8/26～27 富貴野の滝で川遊び、お寺でお泊まり、鉛筆立て作り等
H22 (2010)	26	冬	23	1/5 木の実人形作り、カルタ大会等
	27	夏	16	8/24～25 富貴野の滝で川遊び、仮装寸劇大会、お寺でお泊まり、
	28	冬	15	1/5 独楽・パッチン作り、カルタ大会等
H23 (2011)	29	夏	23	8/25～26 富貴野の滝で川遊び、室内オリンピック、お泊まり
	30	冬	23	1/5 カルタ作り、パッチン作り、カルタ大会等
	31	春	20	4/4 耶馬溪サイクリング
H24 (2012)	32	夏	25	8/22 雨の為川遊び中止、紙粘土工作、ヨーヨー作り、きもだめし等
	33	冬	23	1/6 紙飛行機作り、室内相撲、カルタ大会等
	34	春	12	4/7 和間海浜公園で貝掘り
H25 (2013)	35	夏	14	8/24～25 富貴野の滝で川遊び、きもだめし、ゴム鉄砲工作、お泊まり等
	36	冬	11	1/6 木の実でデコレーション、いのちのご恩鍋等
	37	春	12	4/1 花祭り、河川敷でBBQ、運動公園で木登り等
H26 (2014)	38	冬	14	1/4 ビュンビュンコマ作り、いのちのご恩鍋等
	39	春	18	4/1 花祭り、耶馬溪サイクリング等
	40	夏	12	8/28～29 岳切溪谷での水遊び、草木染めバンダナ作り等
H27 (2015)	41	冬	10	1/6 竹筒で鉛筆立てを作成、カルタ大会等
	42	春	19	4/6 ハマグリの宝石作り、竹筒飯、ゲーム等
	43	夏	12	8/22 大谷溪谷での水遊び等 ※参加者が少ないため1日開催となる
H28 (2016)	44	冬	11	1/6 松ぼっくりを使った工作、いのちのご恩鍋、ビンゴ等
	45	春	19	4/6 「音を見る」をテーマに正法寺住職の指導でいろいろな実験を行う。
	46	夏	28	8/22～23 富貴野の滝で川遊び、提灯行列、工作等
H29 (2017)	47	冬	19	12/27 餅つき、タイムカプセル(手紙「未来の私へ」)等
	48	春	21	4/3 耶馬溪サイクリング、山国川でバーベキュー
	49	夏	26	8/21～22 富貴野の滝で川遊び、工作等
H30 (2018)	50	冬	16	12/26 餅つき等
	51	春	15	4/6 鷹居神社防空壕→安心院旅行村
	52	夏	12	8/20 富貴野の滝で川遊び そうめん流し
R1 (2019)	53	冬	16	12/28 餅つき ドイツの青年ニコラスくん参加
	54	夏	12	8/21 岳切溪谷での水遊び、バーベキュー、花火